

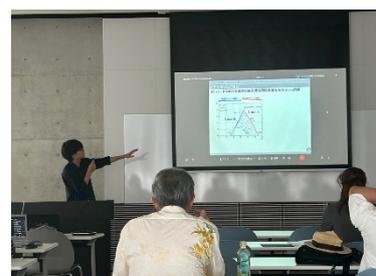
令和5年度 “学生との交流” 報告

支部長 今林 光秀

5月の支部総会にて活動方針として掲げた“学生との交流”が9月7日（木）福岡大学にて行われました。支部総会以降、大学の先生方に相談を差し上げてこの度、福岡大学教授の堺純一先生・北九州市立大学教授の城戸将江先生らの多大なるご協力により実現しました。

大学院の学生さん4名に研究発表をして頂き、JSCA九州からコメントするものです。発表内容は当日初めて聴くものでコメントも即興で対応することになり、JSCA側も適応力が試されることとなります。顧問の尾宮さん・原さん、支部長の今林が参加しました。ちょうどこの翌週が建築学会大会（京都）でもあり、学生さんには良い予行演習になったのではないかと思います。4発表は以下です。（学生さん名は個人情報に配慮し伏せます）

- 十字鉄骨によるコンクリートの拘束効果がずれ止めの力学的特性に及ぼす影響（福岡大）
- 鉄骨梁と床スラブの分別解体および部材の再利用を可能とする接合方法の開発
（その3）合成スラブ用デッキプレートを用いた合成梁の検証実験（福岡大）
- 鋼構造建築物の解体と部材リユースを考慮した設計・施工技術に関する研究
工場建屋を対象とした試設計による検討（福岡大）
- 材の中央を補剛したH形断面柱の弾性座屈荷重
-面端を面外に対して固定した場合の弾性座屈荷重に及ぼす補剛剛性と補剛位置の影響-
（北九州市立大）



発表内容の詳細は割愛しますが、それぞれに特徴のあるプレゼンで、日頃の構造設計業務では知ることのできない有意義な時間でした。JSCA側コメントも、的を得た質問・良くわからないから教えて・実務からの視点など、即興の割には良いコミュニケーションでした。その傍ら、実務と学術の連携について考えました。我々実務者は学術の研究に興味を持っているか、構造の道に夢をもって進んでくれる若者に応えられるだけの設計業務ができていないか、実務と学術が同じ方向を向くことが大切ではないかと。これからも毎年の恒例行事にしましょうと、堺先生と話しました。来年からは発表してくれた学生さんに記念品を進呈したいと思います。JSCA九州ボールペンでも作りましょうかね。 「以上」